

①講義での気付きや学び
興味をしっかり持つこと、色々なことを知りたいと思うこと が大切なこと
自分のやりたいことを持つことの大切さに気付かされました。見つけたら真心をこめてやり抜くこと。（なかなかできないと自分を許してしまっているのですが）
夢を実現させるために戦略を考えて、一つずつクリアさせていくことが大事。夢を実現できないことを環境のせいにするべきではない。聞き手をよく考えていてくれて、とても良い講演でした。
そもそも生物の分野に進まれる中で、少年期からの「生き物」への好奇心がずっとつながっているんですか？
成功の裏にはやっぱり多くの「種」が必要で、個々が「やりたい」事が重要であると改めて思った。もう一つ「軸」を通すことの重要性を感じた。
夢を語ること、独創性で勝負、トレンドを追わないという姿勢はイノベーターに繋がるものがあると思いました。想いの伝え方など勉強になりました。
吉村先生が体内時計というキーワードを基軸に、多くの人を巻き込みながら
・面白い？
・本質的な課題解決に繋がるか？という観点で多岐に亘るテーマに楽しんで取り組んでおられるという印象を受けました。更に、どんなに忙しくても人を巻き込む為には労力を惜しまず、実際に会って話すことを実践されている行動力の源泉は、子供の頃からの好奇心ではないかと思いました。
人生は一度だけ、楽しまないで損
・想いは叶う 強い想いと行動力が重要 を改めて実感した
・「この人がいなかったらこの分野はなかった」は分野という言葉を変えて意識していきたい
・「自分が相手にしている材料ととことん向き合う」 は材料という言葉を変えて製品、課題に変えればビジネスに通じる とことん向き合うを意識していきたい
成功の裏には傾向と対策が必要と気づかされた。同時に成功の要因を成功者に直接聞く大切さ。
先生の興味が変せんしながら「面白い」を続けることの大切さ
ゆめ、やりたい事ベースで仕事をする人ならではの人間的魅力を感じました。
研究テーマの選定においては「一本の柱を通す」ことを重視しているとの事で、企業の開発においても通じると思いました。
生物の種類が目的により異なる。おもしろいかおもしろくないか。時代の流行から距離をおいて考える様にしている。やりたいことをさかなでしよって言われても行う。
生物の意外性や面白さの一面を知ることができました。夢をどう実現させるかを若い頃から実践されていたのがとても参考になりました
科学者にとって おもしろいこと 好奇心をもつことが重要というのが気付きました。
②ディスカッションでの気付きや学び
他分野の融合による目的の明確化。漢方薬とは？ということ⇒スクリーニング（歴史的）の成果
独立した個の意識を持つことが次の流れを作ることにつながることにあらためて気づかせていただきました。
アカデミアの仕事と産業界（企業）の仕事についての考え方のギャップ。企業はアカデミアに起業にできない研究を求める傾向にあるが、国はアカデミアに出口のある研究にお金を多くつける傾向があり、応用研究に手を出さざるを得ない状況は悩ましい問題。ビジネスとして成立するか否か（儲かるか否か）とは別の指標で、国から研究費が取れる。
皆さん、充実したと思います。
「交流」と「トランスフォーメーション」というキーワードから、ベースとなる技術に「横串」効果を最大化するのはどうしたらいいだろう。
変革期であるとの認識や、それをどうやるのかで様々な意見があることを感じた。
体内時計の話、漢方薬はスクリーニング率が高く、歴史の蓄積があるなど、興味深い話が引き出せて良かったと思います。先生の夢と未来塾に共通点があることもわかって良かったです。
会員や塾生の様々な質問に対して丁寧に回答してくださりありがとうございました
体内時計とは何なのかを改めて考えさせられました。
・日本の組織、体制は高度成長期には効率が良かったが、これからは各個人がどうするか、どうしたいかを問われる時代で淘汰が始まっている を聞いて、現在の閉塞感とは日本がダメになったのではなく、変革過程、過渡期にあるという理解ができ、スッキリしました。
おもしろいと思ふ所をstuntにする事を大切にしているようでした。竹林一先生と似ていると感じました。融合がキー
面白いを続けることと トータスをする事の矛盾をいかに両立させるか、、、市民の科学リテラシー向上に答えがあるのかも気づき

異分野融合が「自然に」できるしくみづくりについていろいろと考えられたこと
日本の大学、企業、社会のあり方、将来の方向性について Discussion できた点。PIのアイデア、能力は日本人も高められると感じた。
様々な観点からのディスカッションがあった。壁のない組織から生み出されるものも面白いと思いました。
オープンイノベーションは大切だけど効果的に実践するのは難しい印象を受けました
アカデミックなところと企業との融合は目指すところをそろえていくことはむずかしい場面もある。企業の場合はコストや安全性なども考えていかないとけない
③フォーラムの進め方への意見や要望
全体でのディスカッションにはまだ慣れていない感じでした。参加者のポテンシャルは高いのでうまくファシリテーションできればと思います。
全体でのディスカッションはとても良かったと思います。
もう少し運びを考えて議論できると良かった。
「質問会」から「ディスカッション」へ変化させる「呼び水」は工夫が要るかな
みんなのディスカッションを活性化させるテーマの選択、振り方は結構難しいですね。
全体討議の試みは良かったと思いますが、テーマ設定やファシリテーションの進め方など課題も見えました。今後もやってみて改善できれば面白いと思います。
当方自身、先生に質問をしてしまったので反省していますが、全体でディスカッションを行おうとしても、どうしても各自の聞きたいことを聞く質問タイムになりがちです。
ディスカッションを行う場合にはある程度テーマを決めた方が意見が出やすいのではないかと感じました。
グループ討議だけでなく、全体でするディスカッション形式もたまには良いものですね。
全体でのディスカッションは講師、メンバーの発言を共有でき、議論が発展するところがとても良かった。
発言が特定の人に偏らないよう、或いは議論が特定の方向性に偏らないようにある程度コントロールできれば更に良くなると感じました。議論のやり方、進め方が良く分からず、少し発言しにくかった感がありました。
机の配置は良かった。机の配置を変えても1対多数にすぐに戻るのが不思議だった。成田さんの修正後も1対多数が多かった。コントロールは難しいと思いました。
たまにはこういう井戸バタ形式もいいかもと思います。
スタイルを変えて行う事は良いと思います（今回の様なスタイルも良いと思います）。
全員でディスカッションをする形式もたまには良いと思います。
第2部の進め方は事前に決めてもらった方が進めやすいと思います
異なる分野の話聞くことができ 有意義な時間でした。研究をすすめていく上では共通の考え方もあると感じました。
④その他の意見や要望
グループ討議の手法より今回の方がいいかな。出席者もベテランばかりになってるけど、新しく入ったメンバーの意見をうまく引っ張り出すのは難しいか。。
毎回いろんな講師の話聞くことができ、仕事では得られない機会で、良かったです。
⑤今後、招聘してほしい講師やテーマ
スタートアップの経営者あるいは投資してスタートアップを支えようとしている投資家の方が何を考えているのか、何を狙っているのかを知りたい。
ソーシャルビジネスを推進している方の話を聞きたい
6/22関西フォーラム 京都大 諸富 徹さん？
IoTやAI関連のテーマ
次の6月で考えているのが品質工学とマネジメントです。品質工学が単なる開発ツールから技術マネジメントのツールとして発展しています。
たまにはスコーピングがはっきりしている仕事のマネジメントに対するお話もいいかもと思います。
熱い研究心を持った方のお話を伺いたく思います。
10月に行われる科博の勉強会も楽しみにしております。